

2024 年 7 月 2 日

モーニング娘。から見るハロ!ープロジェクトの歴史
を、解説するためのモーニング娘。の歴史

見せられないよ
本名なもの

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 0.目次 | ・ ・ ・ ・ ・ 0 |
| 1.はじめに | ・ ・ ・ ・ ・ 1 |
| 2.いくつかの諸注意 | |
| (1).ハロー!プロジェクトとは | ・ ・ ・ ・ ・ 1~2 |
| (2).モーニング娘。の時代区分 | ・ ・ ・ ・ ・ 3~4 |
| 3.モーニング娘。の歴史 | |
| (1)創初期(‘97~’99) | |
| i . モーニング娘。の結成~デビュー | ・ ・ ・ ・ ・ 4~5 |
| ii . メンバーの増員と卒業 | ・ ・ ・ ・ ・ 5~6 |
| (2)黄金期(‘99~’02) | |
| i .LOVE マシーンの大ヒット | ・ ・ ・ ・ ・ 7 |
| ii .さらなる新メンバー | ・ ・ ・ ・ ・ 8~9 |
| (3)涙とま期(‘02~’05) | |
| i .ハロマゲドン | ・ ・ ・ ・ ・ 9~11 |
| ii .新メンバーの加入による決定的な影響 | ・ ・ ・ ・ ・ 11~12 |
| iii .人気メンバーの相次ぐ卒業 | ・ ・ ・ ・ ・ 12~13 |
| (4)青空期(‘05~’07) | |
| i .内輪になっていくハロプロとモーニング娘。 | ・ ・ ・ ・ ・ 13~15 |
| ii .プラチナ期のための第二の進化過程 | ・ ・ ・ ・ ・ 15~16 |
| (5)プラチナ期(‘07~’12) | |
| i .プラチナ期の始まりとさらなる人気の低迷 | ・ ・ ・ ・ ・ 16~19 |
| ii .カラフル期のための第三の進化過程 | ・ ・ ・ ・ ・ 19~21 |
| (6)カラフル期(‘12~’14) | |
| i .モーニング娘。の再評価 | ・ ・ ・ ・ ・ 21~23 |
| ii .地位の獲得と道重の卒業 | ・ ・ ・ ・ ・ 24~26 |
| 4.考察 | ・ ・ ・ ・ ・ 27~28 |
| 5.終わりに | ・ ・ ・ ・ ・ 29~30 |

<脚注・参考資料>

1.はじめに

ハロー!プロジェクト(以下ハロプロ)及びモーニング娘。は日本女性アイドル界に多大な影響をもたらしている。その影響は多大で、例えば 2010 年代前半から現在の女性アイドル界でもその形を残している「アイドル戦国時代」^{†1}の始まりとも言えたり^{†2}、後に AKB48 に入り「=LOVE」や「≠ME」などのアイドルをプロデュースしていく指原莉乃や^[3]、AKB48 在籍最長記録を残した^[4] 柏木由紀などを魅了しアイドルの世界に招待したりしている。^{†3} 筆者もまた魅了された一人である。

そんなハロプロの歴史、ある意味日本女性アイドル界の歴史を紐解いていきたいのだが、如何せんハロプロの歴史はモーニング娘。の歴史を避けては通れない。少なくとも私は避けたくない。なぜならモーニング娘。はハロプロより前から存在しているからだ。急に聞くと包含関係が崩れてしまうのも無理もない。だが歴史を紐解いていくときと理解できるはずだ。

また、歴史を解説した後は実際にレポートのテーマである考察をしていく。

2.いくつかの諸注意

(1) ハロー！プロジェクトとは

前章でハロー!プロジェクトに関する説明を怠っていたのはもちろん自覚している。実はこの話題は重要、というかこのレポートの肝であるというのに少々分かりづらい点を孕んでいるのだ。

ハロプロとは何なのか、一旦 Wikipedia を注釈してみよう。^[6]

“ハロー!プロジェクト (Hello! Project) は、アップフロントプロモーション (旧アップフロントエージェンシー) をはじめとするアップフロントグループ系列の芸能事務所に所属する日本の女性アイドルグ

†1:様々なアイドルが市場に存在し、グループが生まれては消えを繰り返す様を戦国時代に例えたもの。2000 年代前半のモーニング娘。及びハロプロが市場を独占していた時代が終了し、AKB48 やももいろクローバーなど多くのアイドルが市場に台頭し始めた 2010 年代前半から現在までの様子を表している。まさに動乱。^{[1][2]}

†2:モーニング娘。の人気の低下からそれを上手に利用した AKB48 の大ブレイクがあり、そこから戦国時代が始まったので一概に「始まり」と言うのは違うという筆者の考えから曖昧な言葉回しをしている。

†3:実際に 2 人ともハロプロのオーディションは受けているが合格はしていない。^{[4][5]}

ループ・女性タレントの総称、またはメンバーのファンクラブの名称。”

うん、非常にわかりづらい。こういうところが初心者が入りづらい点の一つである。まずハロプロとは違う“アップフロント”という謎の団体が出てき、さらには“アップフロントグループ系列”という謎の団体の系列がいっぱい出てくる。そして最後に“またはメンバーのファンクラブの名称”という結局なにがなんだかわからないことになっている。やはり Wikipedia である。

それでは公式での「ハロプロとは」を確認してみたいのだが、なんと用意されていないのだ。流石アップフロントというところだろうか。^{†4}

だが歴史を紐解いていくと「ハロプロとは」がなぜ定義されないのかわかるであろう。ただこのまま歴史に入るのは危ないので筆者なりにある程度定義しておく。

ハロプロとは、アップフロント(音楽事務所)^{†5}がハロプロだと決めたアイドルグループまたはタレントのことを指す。

なんとも不安定な定義である。だがそう説明する他ないのだ。そもそも「ハロプロとは何か」という議論が抽象的なのである。このグループはハロプロ、このグループはハロプロではない^{†6}と認めるしかない。

とはいえここで理解を諦めてもらいたくない。わかりやすい例としてよく挙げられるのがジャニーズや吉本興業だ。感覚としては同じ^{†7}で、この芸人は吉本だけど、こっちの芸人は吉本でないというものである。

そして聞き流してもらっても構わないのだが、ハロプロに所属するアイドルのファンクラブの名前もハロー!プロジェクトなのである。Wikipedia の最後の文はこのためである。

具体例や流れを見ていないのでこの説明で理解できなくても構わない。歴史を把握してこそ初めて理解できるものだと言筆者も感じている。

†4:毎回のようにある CD の歌詞カードのプリントミスや、ホームページが古臭いところ、衣装がダサく地味なところなど今アイドルを売り出しているとは思えない老舗音楽事務所のこと。とはいえ憎めない。

†5:なぜか暖簾分けをとにかくしている音楽事務所。タレントのマネジメントだけで「株式会社アップフロントプロモーション」、「株式会社アップフロントクリエイト」、「ジェイビールーム株式会社」と3つ会社がある^[7]、ここでは全てを総称してアップフロントと呼んでいる。

†6:現在はいないが、アップフロント所属ではあるがハロプロのアイドルではないというグループがいた。

†7:ハロー!プロジェクトという会社ではないのであくまで感覚として理解してほしい。

(2)モーニング娘。の時代区分

世界史や日本史でも大事である時代区分。それはモーニング娘。の歴史においても大事な役割を果たす。

モーニング娘。ではリーダーによって時代区分を分けることが多い。理由は単純で、リーダーが変わることによってグループの雰囲気が変わり音楽性も大きく変わっていくからである。同じ名前なのに何度もメンバー、そして音楽性が変わるグループも無いだろう。「〇〇期のモーニング娘。」と言う事で時代や音楽性を正確に抑えることが出来るのだ。

またこのレポートでの時代区分はファンの中で一般的に呼ばれるものと否なものがあるのでモーニング娘。はこの時代区分をされると一概に言えるものではないことは注意してほしい。

◎モーニング娘。の時代区分(このレポート上)

| 年代 | 通称 | リーダー | 音楽性 | 代表曲 |
|--------|-------|------------|---|---------------------------------------|
| 97～'99 | 創初期 | 中澤裕子 | R&B、現在のアイドルソングとは少し遠く恋愛曲多め。 | 「抱いて HOLD ON ME!」 |
| 99～'02 | 黄金期 | 中澤裕子、飯田圭織 | ダンス☆マンのディスコ、ダンス、ファンクに加え、ビッグバンドやアラビアなど曲により様々。全体的に元気。愛や地球のことを歌い出したのはこのあたりから。 | 「LOVE マシーン」 「ザ☆ビース」 |
| 02～'05 | 涙とま期 | 飯田圭織、矢口真里 | ハロマゲドン以降の楽曲たち。いくつかのバンドでのファンクサウンドや、失恋というか相手を憎んでいるレベルの曲など、今のハロプロの要素が多く含まれている。 | 「浪漫～MY DEAR BOY～」 「シャボン玉」 |
| 05～'07 | 青空期 | 吉澤ひとみ、藤本美貴 | 前半はただの個でなく集団を意識したような曲を押し出す楽曲たち。後半では後につながるような大人の恋愛、そして力強くマイナー調なファンク。 | 「SEXY BOY～そよ風に寄り添って～」 「笑顔 YES ヌード」 |
| 07～'12 | ブラチナ期 | 高橋愛、新垣里沙 | 歌やダンスをゴリゴリに重視している頃。大人の恋愛とマイナーファンクだけでなく、R&Bなどを寂しげな EDM に乗せた楽曲多め。歌詞がめっちゃいい。 | 「リソナント ブルー」 「気まぐれプリンス」 |
| 12～'14 | カラフル期 | 道重さゆみ | EDM、フォーメーションダンスの頃。めちゃくちゃバキバキの EDM もありながら、ちゃんと陰にはつくく節、ダンスでリズム感最高な楽曲ばかり。超 16 ビート。 | 「One・Two・Three」 「Help me!!」 |
| 14～'17 | ミス期① | 譜久村聖 | 道重、田中が卒業して更に集団の美を魅せつける、だけでなくめっちゃ個で攻撃してもくるといった時期。EDM もえぐいファンクもバラードも全てあるハロプロの王道、されど一線を画している存在。つくく以外が手掛ける楽曲が多くなりまた新しいモーニング娘。が見られた時期でもある。 | 「泡沫サタデーナイト!」 「ジェラシー ジェラシー」 |
| 17～'24 | ミス期② | 譜久村聖、生田衣梨奈 | メンバーの年齢差も開いてき、更に個の魅力が強くなってきた時期。音楽性はミス期①とあまり変わっていないはずなのに妙に明るくなりふと聞くと泣いてしまいそうな楽曲多め。ミクロとマクロが激しいように感じます。 | 「LOVE ベディア」 「KOKORO&KARADA」 |

ちなみに注釈のために一般的なもの^{†8}を挙げると、「黄金期」「青空期」「プラチナ期」「カラフル期」の4つである。

ひとつひとつの時代を主観 MAX で綴ることも可能だが、それはただの自己満足になってしまうので今回はお預けしたいと思う。歴史を紐解いたり、実際にモーニング娘。と関わる機会があったりする時に困ったらここに来てほしい。

そして音楽性などの大きな流れはハロプロの流れとも似ているので把握してもらいたい。

3.モーニング娘。の歴史

ここではモーニング娘。の歴史を [8] を軸に述べていく。

また、この歴史を追う上で大切にしてほしいことはメンバーの変遷などではなく、「**アイドル界でのモーニング娘。の立ち位置とそれに対応した音楽性の変遷**」である。もちろんメンバーに関しても記述していくが本質ではない。

(1) 創初期('97~'99)

i.モーニング娘。の結成～デビュー

そもそもモーニング娘。とはどのようにして結成されたのか。

1997 年、テレビ東京系のオーディション番組「ASAYAN」で「シャ乱 Q 女性ロックボーカリストオーディション」なるものが開催された。その名の通り、シャ乱 Q の妹分となるような女性シンガーをオーディションするという企画である。とは言えなにか違和感を感じるはずだ。そう、オーディションで探しているのは女性シンガーである。あれあれ話が違うじゃないかとなるだろう。事実、合格者は一人であった。^{†9}

なぜ合格者がモーニング娘。でないのにこの話を始めたのか。それは落選者がモーニング娘。となったからだ。まさかであろう。

合格者が決まり、5 ヶ月ものオーディションが終わった時、番組内でシャ乱 Q

†8:2ちゃんねる(現5ちゃんねる)などファンの中で広く呼ばれている非公式の時代の通称。ハロプロのメンバーが使うこともあるぐらい一般的である。

†9:平家充代(デビュー時は平家みちよ)

のボーカルであるつんく(現つんく♂)が落選した中澤裕子、石黒彩、飯田圭織、安倍なつみ、福田明日香の5人を収集してモーニング娘。^{†10}を結成させた。

その後デビューに向けた試練^{†11}を乗り越え、1998年1月28日「モーニングコーヒー」でつんくプロデュースとしてモーニング娘。はデビューした。

そしてこのタイミングでモーニング娘。とオーディションの合格者である平家みちよの合同ファンクラブ「Hello!」が設立した。また1999年に「Hello!Project」に改名し現在のハロー!プロジェクトと同じ体勢となった。これが先述のハロプロよりモーニング娘。の方が前から存在しているということである。

なお当時のモーニング娘。は楽曲での評価ではなく ASAYAN でデビューしたグループぐらいの立ち位置であり、今で言うアイドルとは程遠かったといえる。

ii. メンバーの増員と卒業

モーニング娘。はメンバーの卒業と加入の新陳代謝によって存続しているグループである。今となっては珍しいことではなく当たり前に行われているが、当時としては斬新であった。実際にモーニング娘。が初めてこのシステムを導入したというわけでは無いが^{†12}、そのシステムで現在までグループが存続しているという点では影響力は大きいと言える。

ここではそのモーニング娘。における新陳代謝のシステムの始まりについて追っていく。

モーニング娘。がデビューして4ヶ月が経った1998年5月。保田圭、矢口真里、市井紗耶香の3人の追加メンバー(2期メンバー)が加入することがつんくより発表された。

当時としてはデビューしたてでまだシングルを一枚しか出していない状態であ

†10:グループ名の由来は、「モーニングセットのように『いろいろ付いてくる、盛沢山、おトク感!』を意図したユニット」である。命名はもちろんつんく。ちなみに「。」の由来は ASAYAN のテロップの慣習で最後に句点を入れるものがあり、番組の司会をしていたナインティナインのスタジオでのトークによって「。」までグループ名となったとされている。なので特に意味はない。^[9]

†11:インディーズシングル「愛の種」を5日で全国5箇所、5万枚手売りするといったもの。

†12:実際に初めてこの制度を取り入れたのはオールナイトフジのオールナイターズであると言われている。

[10]

り、既存のグループにメンバーが加入することがまだ新鮮であったためグループ内外問わず騒然であった。

だがこの策略は成功し、同月発売した 2nd シングル「サマーナイトタウン」はオリコンチャート初登場 4 位を記録した。

そして次ぐ 3rd シングル「抱いて HOLD ON ME!」では初の週間オリコンチャートで 1 位を獲得した。さらに同年のレコード大賞で最優秀新人賞を受賞、第 49 回 NHK 紅白歌合戦に出場など大きく躍進した曲となった。

ここまでは順調だったモーニング娘。だが 1999 年、最年少のメンバーかつ歌唱力でグループを大きく引っ張ってきた福田明日香が脱退すると表明した。^{†13} (同年 2 月に 4th シングル「Memory 青春の光」をリリース、4 月に卒業)

その後 7 人体制で 5th シングル「真夏の光線」6th シングル「ふるさと」をリリースするも、当時同じ ASAYAN 出身であった小室哲哉プロデュースの鈴木あみ(現鈴木亜美)との直接対決のような演出を ASAYAN でされるなど人気は低迷していた。

ここで創初期は終わりである。当時は国民的アイドルとは程遠く、事実 5th、6th と売上は低迷している。

だが音楽性は今見ても唯一無二で、今考えるアイドルソングとは遠いものではあったが、R&B 要素強めであったり、ハロプロの特徴でありテーマであり最も大切にしていると言っても過言ではない 16 ビートもダンスブルに感じたりと楽曲的に欠けているということは 1mm も感じないものとなっている。

そしてハロプロ全体に言えることだが、そもそものプロデュースがバンドマンであったり、アリスや KAN、森高千里などが所属している音楽事務所アップフロントだったりしているので音楽に懸ける情熱や努力は他のアイドルとはかけ離れているのである。

実はこのタイミングでハロー!プロジェクトにモーニング娘。と平家みちよ以外のグループが誕生している^{†14}ののだが、とりあえずモーニング娘。の歴史を把握してほしいので割愛する。

†13:表向きでは学業優先という理由だったが、実際は [11] のように語っている。

†14: ASAYAN による「つんくプロデュース芸能人新ユニットオーディション」で合格した太陽とシスコムーン。

(2)黄金期(‘99~’02)

いよいよモーニング娘。が国民的アイドルとなっていく。日本に住んでいたら一度は聞いたことあるはずの LOVE マシーンやその他楽曲たちの特徴、また当時のモーニング娘。の地位について述べていきたい。

ここではメンバーの変遷が当たり前になっていくので1節みたく深く記述はしないが一応全メンバー、全シングル記述してくので細かく歴史を知りたいという人も安心してほしい。

i .LOVE マシーンの大ヒット

1999 年、人気が低迷していたモーニング娘。はここで状況を打開すべく新メンバーオーディションを開催し、その合格者である後藤真希が同年 8 月に 3 期メンバーとしてモーニング娘。に加入した。そして 9 月、現在を含めてもグループ最大のヒット曲である 7th シングル「LOVE マシーン」を発売し、オリコン週間シングルチャートでは 3 週連続 1 位、最終的に累計売上は約 164 万枚を記録した。(なおこのシングルを最後に 2000 年 1 月に初期メンバーである石黒彩が卒業した。)

LOVE マシーンはこれまでの路線とは大きく変更し、ポップでコミカルなダンスナンバーである。またハロプロ楽曲でダンス☆マン^{†15}を初めて起用した曲で、ただ明るいだけでなく音楽的にも芯のある曲の始まりでもあると言える。

またヒットには新メンバーの後藤真希による影響も大きく、圧倒的ビジュアルに加え当時 13 歳(中学 2 年生)で金髪の子がモーニング娘。に加入してセンターを飾ることが革新的であり良い意味で世間を裏切った。

そして 2000 年 1 月、8th シングル「恋のダンスサイト」も約 123 万枚の売上と、好成績を残していった。

†15: 公式サイトより^[12]、”ミラーボール星出身。大好きな 70~80 年代のダンス・クラシックスの名曲の素晴らしさを伝えるためアーティスト活動を開始。原曲の“ノリ”を損なわないよう、英語詞の語感を大切にしながらオリジナルの日本語詞をつけて歌う。サウンド面では生のグルーブに現代のテイストを加え、新しいダンス・クラシックスを作り出している。”ハロプロにおいてはモーニング娘。黄金期だけでなく、Berryz 工房やアンジュルム、Juice=Juice など多くのグループの楽曲のアレンジや作曲を手掛けている。

ii.さらなる新メンバー

2000年4月には4期メンバーの吉澤ひとみ、石川梨華、辻希美、加護亜依の4人が加入してきた。HEY!HEY!HEY!やうたばんなど、楽曲だけでなくトークの面でも活躍するメンバーが増えてきたことでますます国民的アイドルの地位を手に入れたといっても過言ではない。^{†16}

なお同年5月に9thシングル「ハッピーサマーウェディング」を発売、そして2期メンバーの市井紗耶香の卒業。9月に10thシングル「I WISH」、12月に11thシングル「恋愛レボリューション21」を発売した。どれもオリコンランキングで高い成績を残し、現在も愛され歌い継がれている曲ばかりである。一曲一曲を紹介していくとキリがないので今回は割愛する。

そして2001年4月、初代リーダーかつ初期メンバーの中澤裕子が卒業し、2代目リーダーに初期メンバーの飯田圭織が就任した。同年7月に唯一の9人体制で12thシングル「ザ☆ピ〜ス!」をリリース。なおリーダーは変わったが音楽性はまださほど変わらない。近い内に変わるタイミングとしてはこれからの内容だが、「5期メンバーの加入」と「ハロマゲドン」であろう。

同年8月に5期メンバーである高橋愛、小川麻琴、紺野あさ美、新垣里沙が加入した。一年に一度ペースでの加入、4期メンバーのトーク力やキャラクターなどのタレント性から5期メンバー及びモーニング娘。は少し向かい風を負うことになる。とはいえ音楽性の面では、メンバーが歴を重ねた分歌唱力の進化が顕著であること、また人数が増えたことによりジャンルの幅や音の厚みが増えたりしている。^{†17}

10月には13thシングル「Mr.Moonlight〜愛のビッグバンド〜」、翌年2002年2月に14thシングル「そうだ!We're ALIVE」、7月には15thシングル「Do it!Now」が発売された。

ここで一旦このレポート上での黄金期は終了する。

国民的アイドルとなったモーニング娘。音楽的にも申し分なく順風満帆に見

†16:実際問題、当時は現在のような戦国時代ではなくモーニング娘。及びハロプロの覇権状態であったため競う相手がいなかった故とも言える。

†17:最近もアニメ チェンソーマンのOP テーマである「KICK BACK/米津玄師」に「そうだ!We're ALIVE/モーニング娘。」の「努力 未来 A BEATIFUL STAR」という節がサンプリングされたりと評価は高い。^[13]

えるが今後はどうなっていくのか。

なお、音楽性の面では、創初期とは全く路線の違う 16 ビート感じる元気なダンスابلな曲が多い。さらにダンス☆マンがアレンジを手掛けることで^{†18}、ディスコ、ダンス、ファンクなどの色を取り入れより幅広く楽曲を彩っている。

(3)涙とま期(‘02~’05)

ここでは最大の絶頂とも言える黄金期を終え、徐々に人気低迷していくモーニング娘。について述べていきたい。

なお、「涙とま期」という名前は一般的ではなく、筆者がつけた名前である^{†19}。黄金期とこの次の青空期は一般的だが、この間の名前が無く区別しなかったので名前をつけた。実際にこの時代は、モーニング娘。の人気の低迷と多くの人気メンバーの卒業が絡んでくる蛹のような重要な時代である。

i.ハロマゲドン

まずハロマゲドンという言葉の説明をしておこう。Wikipedia より^[14]、

“ハローマゲドンとは、2002 年 7 月 31 日にプロデューサーつんく♂により発表されたハロー!プロジェクトの大規模改変のことを指し、ファンの間で呼ばれている呼称である”。^{†20}

この事件の Wikipedia のページも出来ているくらいモーニング娘。史及びハロプロ史を振り返る上では欠かせないものである。大規模改変と言ったものの、察する通り良い知らせなどないに等しい。

この事件は起こったほうが良かったのか否かという議題だけでまた一本レポートが書けるほど濃い内容なのでこの事件に関する考察は割愛(ちなみに筆者は後者派である)。

†18:実際に手掛けているシングル曲は「LOVE マシーン」、「恋のダンスサイト」、「ハッピーサマーウェディング」、「恋愛レボリューション 21」、「ザ☆ビ〜ス!」、「そうだ!We're ALIVE」のみである。これは黄金期の楽曲だけでなく現在までのモーニング娘。も含めてこの曲のみである。

†19:「涙が止まらない放課後」という楽曲から名付けている。実際に一般的に呼ばれる時代区分の呼び方もアルバムや曲の名前から取っていることがほとんどであるので違和感はないはずだ。

†20:Wikipedia では「ハローマゲドン」とあるが、筆者は語呂の良さから「ハロマゲドン」呼びしている。どちらも全く意味は変わらない。三平方の定理とピタゴラスの定理ぐらいの感覚だ。

ハロマゲドンによって何が起きたのかをモーニング娘。の歴史に関わるものだけ取り扱って紹介する。^{†21} Wikipedia ^[14] より、

“・モーニング娘。のメンバー後藤真希が、2002年9月23日の17歳の誕生日をもって同グループを卒業する。

・モーニング娘。のメンバー保田圭が、2003年春のコンサートをもって同グループを卒業。卒業後は女優として活動する。

まず1つ目の後藤真希の卒業。

超人気メンバーであった彼女の卒業。在籍日数がそれほど長くなく^{†22}それだけで大きなニュースだが、これが発表された日、すなわちハロマゲドンが起きた日が7/31であったということ。お気づきだろうか。卒業するのは2ヶ月後である^{†23}。当時のハロヲタからしてみれば、他の大変革もある中2ヶ月後に後藤真希が抜けるというどこまでクリティカル攻撃を喰らえばいいのという状態だ。

そして2つ目の保田圭の卒業。

後藤真希とは相反して半年以上先の卒業である。当時うたばんなどで本人曰く婚活に支障が出たほどイジられていた彼女であったが、パフォーマンスの面ではダンスや歌唱の面で大きくグループを支えており今もなおその歌は健在である。当時のハロヲタからしてみれば、なぜそんな待たせるのか、というかなぜそのタイミングで発表したのかという心境であったろう。

モーニング娘。にまつわることだけ取り上げてもこれほど衝撃的なハロマゲドン。この事件により大きく人気を失っていった。実際に自分の周りでの一般的なモーニング娘。のメンバーの知名度を調べても、せいぜい5期メンバーの名前に聞き覚えがあるぐらいで次加入してくる6期メンバーの名前など大半の人は覚えていない^{†24}。

またこの頃発売したシングルとしては、後藤の卒業後2002年10月には16thシングル「ここにいるぜえ！」を、翌年2003年2月に17thシングル「モーニン

^{†21}:ハロプロ全体の事件でもあるのでモーニング娘。に関係ないところは今回は割愛。

^{†22}:歴代47人中41番目の長さ(約3年)で、OGだけだと34人中31番目^[15]という異例の短さである。

^{†23}:現在でも卒業発表して2ヶ月というスパンで卒業というのは異例の短さである。先日同じく発表して2ヶ月で卒業した山崎夢羽のような卒業後のプランが明確なパターンならまだ理解できるにしろ、後藤真希のような理由のはっきりとしない卒業は当時のファンは相当理解に苦しんだであろう。

^{†24}:当時とは違う時代に広くメディアで活躍してきた道重、藤本の知名度はある程度広い。

グ娘。のひょっこりひょうたん島」、4月に18th シングル「AS FOR ONE DAY」発売、5月に保田圭が卒業した。

この頃の音楽性としては、ポップさは黄金期などに比べて足りないがアップテンポで、さらに歌唱力の進化が感じ取れ16ビートを強く感じる曲が多い印象だ。実力主義になっていくのはここが原点なのかもしれない。筆者はそうは考えない。

ii.新メンバーの加入による決定的な影響

2003年1月に6期メンバーである、藤本美貴^{†25}、道重さゆみ、田中れいな、亀井絵里が加入してきた。だが実際に6期メンバーがモーニング娘。として活動し始めるのは保田の卒業後だ。

表題にもある通り6期メンバーの加入はモーニング娘。を変えたと言っても過言ではない。初の平成生まれの加入という経歴的な話でもそうだが、そうでない面での新しいモーニング娘。の始まりである。話をする前に楽曲に触れ合ってもらったほうが早いであろう。

同年7月、19th シングル「シャボン玉」を発売した。自分が当時この曲を聞いていたらとんでもない衝撃を喰らっていただろう。イントロからノンストップで始まる失恋、というか憎しみに近い感情。さらに曲の一番最初から新メンバーのソロで始まり^{†26}、中盤のセリフでの石川梨華の違うものが宿っているとしか思えない怪演技。さらに楽式もめっちゃくちゃ^{†27}でどんどん狂わせてくるつく。これは完全にモーニング娘。が変わったとしか思えない。

新メンバーも、ソロ活動をしておりソロで紅白歌合戦にも出場した藤本美貴、歌唱力だと既存のメンバーをももろともしない田中れいな、歌が超絶苦手デビュー曲ではほぼセリフしかない道重さゆみ、City Girlなのに芯のある歌声、なのに自分かわいいな亀井絵里。よく考えるとすごい4人が入ってきている。

また同年11月には20th シングル「Go Girl ～恋のヴィクトリー～」、翌年2004年1月に21st シングル「愛あらば IT'S ALL RIGHT」を発売。世間的な人

†25:当時ソロ活動をしていた中での加入で、今でもそのケースはない。

†26:田中れいなソロパートである。当時新メンバーとは思えない歌の安定感は今もお変わっていない。

†27:落ちA→サビ→A→B→サビ→セリフ→サビ→A→B→落ちサビ→サビ、という無秩序極まりない楽式である。

気は無くなっていた時代だが、音楽やパフォーマンスからは一つも逃げないモーニング娘。であった。それがどんどんコアに、大衆的ではなくなっていくモーニング娘。を作るきっかけになっているのかもしれない。

iii.人気メンバーの相次ぐ卒業

この時代('04~'05)では黄金期を飾った数々の人気メンバーが卒業していく。挙げていくだけで暇がないぐらいだが、グループ自体の流れはそこまで複雑ではないので簡単に振り返っていきたいと思う。

21st シングル発売後の 2004 年 1 月、初期メンバーの安倍なつみが卒業した。

その後同年 5 月 22nd シングル「浪漫～MY DEAR BOY～」7 月に 23rd シングル「女子かしまし物語」を発売。8 月に 4 期メンバーの辻希美、加護亜依が卒業した。

そして同年 11 月 24th シングルである「涙が止まらない放課後」、翌年 2005 年 1 月 25th シングル「THE マンパワー!!!」を発売、同月初期メンバーかつ 2 代目リーダーである飯田圭織が卒業した^{†28}。

3 代目リーダーは 2 期メンバーの矢口真里となったが、同年 4 月 26th シングルの「大阪 恋の歌」をリリースする前に恋愛スキャンダルにより脱退した。^{†29}
[17]

4 代目リーダーは 4 期メンバーの吉澤ひとみとなり、同年 5 月 7 期メンバーの久住小春が加入、同月に 4 期メンバーの石川梨華が卒業した。

怒涛の歴史である。実際、黄金期の代表曲である 12th シングル「ザ☆ピース！」に参加していたメンバーはたった 4 年で吉澤ひとみしかいなくなった。

だがここで総じて言えることは、19th シングル「シャボン玉」の際に述べたどんどんコアに、どんどん大衆的ではなくなるモーニング娘。が加速しているだけなのである。

22nd シングル「浪漫～MY DEAR BOY～」では多くのバンドマンが参加しており、バンド&ファンクといった今も全く色褪せないサウンドとなっていたり、25th シングル「THE マンパワー!!!」では音数がとにかく少なく、PV ではカットの数が一桁台など尖り散らかしている。

実際人気メンバーが抜けていっても残っているメンバーの実力が全く申し分

†28:これでモーニング娘。初期メンバー全員が卒業した。

†29:そのため「大阪 恋の歌」に矢口真里は参加している。

なく、そもそもモーニング娘。自体の世間的な人気も落ちているのでさほど影響がないのだ。

そして涙とま期は終わりを迎え青空期に突入していく。どんどんコアに濃くなっていくモーニング娘。はこの後どういったグループになっていくのか。

改めて涙とま期の音楽性をまとめると、黄金期から徐々にコアに、音楽的に濃くなるよう逸れていくモーニング娘。。きつとつくく♂も作っていて楽しかったであろう。そしてこの頃からモーニング娘。は国民的アイドルとは遠い存在になりつつある。実際に AKB48 などのアイドルも台頭してきて戦国時代を迎えるまでも間もない。

(4)青空期('05~'07)

ここでは吉澤ひとみがリーダーになってから高橋愛がリーダー就任する前のモーニング娘。の歴史を述べていく。実際青空期という名称は一般的に使われ、だいたいそういう定義である^{†30}。

実際問題この歴史は分厚い訳では無いが、次のプラチナ期につながる大切な期でもあり、名称が一般的になるほどこの時期のファンも多い。

i.内輪になっていくハロプロとモーニング娘。

ハロプロとは内輪^{†31}なのである。現在は解消されてきてはいるが、当時は顕著であった^{†32}。それにはいろいろな理由があると思うがそこについての議論はまたにしよう。

長く内輪であったハロプロ及びモーニング娘。はどういった歴史を歩んだのか。内輪であることが仇となる瞬間はもう少し先かもしれないが。

7期メンバーである久住小春の影響は大きい。

†30:名称は広く使われていても使う人によって定義はそれぞれである。

†31:ハロプロ以外のアイドルとイベントやライブをしたり、アイドルフェスやロックフェスに出演しないということ。要は鎖国である。

†32:C-ute やスマイレージが外部のフェスに出始めてようやく少しずつ解消してきているレベルで、実際それが起こり始めるのは当時から6,7年後ぐらいである。モーニング娘。は現在未だに内輪的で、ハロプロ以外のグループとの対バンライブは無く外部のイベントはロックフェスにしか出ないという奇策である。

石川梨華が卒業した後の2005年7月に27thシングル「色っぽい じれったい」、11月に28thシングル「直感2 ～逃した魚は大きいぞ!～」、翌年2006年3月に29thシングル「SEXY BOY ～そよ風に寄り添って～」をリリースしてモーニング娘。が板について来た頃、テレビ東京系で放送されるアニメ「きらりん☆レボリューション」の主演のキャストボイス、そして主題歌を歌うという仕事が来たのだ。

この仕事は非常に大きく、当時の子供たち以外にも広まり一種のブームとなった。さらにこのアニメを見て久住小春に憧れハロプロに入ったというハロプロのメンバーも実際に多く存在している。そして現代でも久住小春やきらりん☆レボリューション自体は知らなくても主題歌であるバラライカは知っていたりと知名度は深い。^{†33}

もちろんグループ内でもエース格であり、高橋愛、藤本美貴、田中れいな、久住小春が主な当時の歌唱メンバーであった。

2006年6月30thシングル「Ambitious! 野心的でいいじゃん」の発売後、5期メンバーの紺野あさ美、小川麻琴が卒業した。(各々7月,8月)実はこの卒業がこれからのモーニング娘。を暗示していたのかもしれない。

この二人、グループ内では強い個性を放っており、フォーマンズの面ですっと引っ張ってきたと言う存在ではないが唯一無二の歌声で要所要所を担当していたり^{†34}、さらに5期メンバーの中でもキャラがはっきりとしている方であったりと個の部分で強くわかりやすく位置してきたメンバーであった。この2人の卒業によりグループは陽陰さまざまな個を曲で魅せることは少なくなったように感じる。

だがそれは決してネガティブな意味ではない。モーニング娘。及びハロプロはややこしいことに人気が落ちているからと言って楽曲のクオリティはなんら変わらない。むしろ人気があった頃とは違う音楽性になっていたりパフォーマンス力が著しく進化したりと全く人気は依存していないのだ^{†35}。

それでは青空期の終わりとプラチナの前兆の部分を果たしている、これまた大切な時期を見ていこう。青空期という名称^{†36}と反している部分があるかもしれ

†33:テレ東系のアニメの主題歌がハロプロのグループが担当することは多くあり、これまでもイナズマイレブンでのBerryz工房や、しゅごキャラ!でのBuono!、シャドウバースでのOCHA NORMAなどが担当している。

†34:24thシングル「涙が止まらない放課後」では紺野あさ美がセンターポジションであり、歌が得意なわけではないけれど歌声の個性がある人たち(石川、道重)のメインとなる唯一無二の曲である。

†35:27年も第一線で活躍するグループアイドルなのだからそうでないと話がまとまらない部分もある。

ないが、このレポート上の時代区分なので気にしないでもらいたい。

この頃の音楽性としては上述しているところもあるが、黄金期よりコアになりつつも、変わらずダンスブルで 16 ビート感じる疾走感のある曲ばかりだ。少し異国情緒も漂っていたりとか。キャッチコピーをつけるなら「パラレルワールドの黄金期」だろうか。なにか黄金期の部分も感じるのだ。

ii. プラチナ期のための第二の進化過程

グループが急に変わるといったことはまずない(少なくともハロプロでは)。今までもわかるように進化に向けての蛹のような期間があったはずだ^{†37}。これからはそんな時期である。

紺野・小川が卒業した後の 2006 年 11 月に 31st シングル「歩いてる」をリリース。その後同年 12 月、8 期メンバーの光井愛佳が加入し 9 人体制で翌年 2007 年 2 月に 32nd シングル「笑顔 YES ヌード」をリリース。この曲がこれからのモーニング娘。の音楽性や方針を暗示しているように思える。

つんく♂のライナーノーツより^[18]、

“今回のシングル「笑顔 YES ヌード」はソウルフルなファンキーダンスナンバー。

BASS とピアノのグルーヴ感とそこからかもし出される立ち上がりの強いビート。

決してアップテンポという意味ではありませんよ！”

今までこんな曲あっただろうか。実際に自分の耳で試しに聞いてほしい。「かっこいい」を基調としているとでも言おうか。上述の通りファンクなダンスナンバーなのだが、これまでと違う点はサウンドの引きが強く重厚感そして高貴感がとても漂っている。未だに一番新しくて尖っていることをするのはモーニング娘。だと思う。27 年たった今でもそれは変わらない。

そんな音楽性を固めたまま同年 2 月 33rd シングル「悲しみトワイライト」をリリース。その後 5 月に 4 期メンバーで 4 代目リーダーである吉澤ひとみが卒業

†36:7th アルバムに収録されている「青空がいつまでも続くような未来であれ!」という楽曲から名称を取っている。この曲には小川麻琴や紺野あさ美が参加しており、その頃のモーニング娘。を指す意味で使われることもあるのでやはり一般的であろうと定義は曖昧だ。

†37:黄金期→青空期の間の涙とま期のような、はっきりとした音楽性が確立しているわけではないが次に繋がる進化の過程の時期が主に三度ほどある。

した。5代目リーダーは6期メンバーの藤本美貴になったが就任25日でリーダーを辞め^{†38}、6代目リーダー5期メンバーの高橋愛となった。

そして33rdシングルの「悲しみトワイライト」のリリース前である3月^{†39}に8期メンバー^{†40}であるジュンジュン、リンリンが加入する。

(5)プラチナ期(‘07~’12)

この時期はモーニング娘。及びハロプロの歴史を述べるうえで決定的なターニングポイントとなる。音楽性の面ではなんら問題がないのだがここで綴るべきポイントはアイドル界での立ち位置だ。

ちょうどこの時代にAKB48やももいろクローバーなどのアイドルが多く台頭してきて戦国時代の始まりを迎える。人気が落ちているモーニング娘。はこのアイドル戦国時代をどう生きていくのか。このプラチナ期と次のカラフル期が見応えである。

またこれまでの期と違い5年間もプラチナ期であるが曲のリリースやメンバーの新陳代謝が短スパンであったわけではないので、これまでの5年分の歴史とは厚さが違うかもしれないがそれは把握してもらいたい。

またプラチナ期という名称^{†41}は非常に一般的でメンバーもこの名称を使うこともある。そしてこの時代のファンもハロプロのメンバー含め多いので是非楽曲を聴いてみてほしい。

i. プラチナ期の始まりとさらなる人気の低迷

いよいよプラチナ期が始まっていく。2007年7月に9人体制で34thシングル「女に 幸あれ」、同年11月に35thシングル「みかん」、翌年2008年4月に36thシングルに「リゾナント ブルー」、9月に37thシングル「ペッパー警部」、

†38:今でもリーダー史上最短記録。^[19]恋愛スキャンダルで脱退したがその後の結婚生活やママタレとしての活躍から芸能界の地位を失うこともなく、さらにオタクだけでなく本人も25日という短さをネタにすることも多々ある。

†39:実際に活動し始めるのは次のシングルである「女に 幸あれ」から。

†40:8期メンバーは加入時期は違うが光井愛佳、ジュンジュン、リンリンの3人とされている。

†41:9thアルバムである「プラチナ9 DISC」が由来。一般的には吉澤・藤本の卒業～亀井・ジュンジュン・リンリンの卒業までの期間を指すが、ここでは新垣・光井の卒業までとする。

翌年 2009 年 2 月に 38th シングル「泣いちゃうかも」、5 月に 39th シングル「しょうがない 夢追い人」、8 月に 40th シングル「なんちゃって恋愛」、10 月に 41st シングル「気まぐれプリンセス」をリリース。

急に 2 年も流して大丈夫かと思われるかもしれないが安心してほしい。上述の通りこの 2 年ではあまりメンバーや音楽性に変化はないのだ。

音楽性の話をしておく上での時代区分の表にもあるとおりなのだが、青空期後半の大人の恋愛とマイナーファンクだけではなくそれを加速させたもの、そして R&B などを寂し侘びしな EDM に乗せた楽曲多めである。メンバーの新陳代謝がなかった故、平均年齢が上がりそういう雰囲気を出せたという背景もある。

またメディアでのプラチナ期の説明としてライブ活動に重きを置いていた時期とも言われており、歌やダンスのパフォーマンスでは他の追従を許さないものとなっている。これが今後のハロプロに影響を与えていくとも言えるだろう。

そしてもちろん青空期より遥かにコアで深くなっている。黄金期などの欠片もない。その原因は現在のモーニング娘。やハロプロで多くの曲をアレンジしている大久保薫^{†42}の起用が関係している。彼の特徴はやはり EDM であろう。同じハロプロに多くの楽曲を提供している星部ショウによる大久保薫の魅力の説明^[21]を参照すると、

“①刺激的なシンセ

②巧みなボーカルチョップ^{†43}

③美しいストリングス^{†44}

とまとめている。

この言葉にまともな通り、EDM 路線も革命的で今まで聞いたことのないワクワクが止まらないアレンジを施すのだが、ストリングスやアコースティックな路線でも活躍するのだ。43rd シングルの「青春コレクション」など華麗なアレンジもしている。この人なしでは今ハロプロはなかったのではないかと云っても過言ではない^{†45}。

^{†42}:大阪府出身の作曲家・編曲家^[20]。アニソンやアーティストの作編曲を多く手掛けている。手掛けている作品数と質の両面でアニソン界でもハロプロ界でも神のような存在である。

^{†43}: あらかじめ録音された音声をずたずたに切り刻んで、細かくランダムサイズして再生する手法。^[22]

^{†44}: バイオリン、ビオラ、チェロなど、主に弓で弾く弦楽器のこと。シンセサイザーでそれら弦楽器の音を模した音色のことという。^[23]

^{†45}:後のカラフル期でさらにとんでもない曲を作りグループを変えていく。

いつのモーニング娘。も音楽性に申し分ないがここでの要点はアイドル界での立ち位置だ。実はいくつもの要因が文中に出ている。それらをまとめてみよう。

まずモーニング娘。は内輪的、閉鎖的であった。そもそもがモーニング娘。しかアイドルがいなかった状態で始まったため他との関わり方を知らなかったとも言おうか。

そして平均年齢の上昇。メンバーの新陳代謝がないので話題性も生まない。さらには黄金期活躍していたメンバーも5期メンバーぐらいで青空期と比べると知名度も無いに等しい。

その状態でアイドル戦国時代を迎える。察しの通り黄金期のような覇権には躍り出られるわけもなく数多のアイドルの中に埋もれていく^{†46} ^{†47}。

また2009年10月、エース格のメンバーである久住小春が卒業した。

光とも呼べる個のメンバーが卒業したことで陰の要素が強くなったとも解釈できるが、個人的にはそうでなく更に集団での力が強まったように感じる^{†48}。

久住のいなくなった8人体制で、2010年2月、42nd シングル「女が目立ってなゼイケナイ」、同年6月には43rd シングル「青春コレクション」、11月は44th シングル「女と男のララバイゲーム」をリリース。

そしてついに同年12月、6期メンバーの亀井絵里、8期メンバーのジュンジュン、リンリンが卒業した。これによりモーニング娘。は結成時と同じ5人となる。

ここで一度時代に区切りがつく。先に言ってしまうとここから人气が復活していきメディアに取り上げられ今と近い地位を獲得していく。

ただ、まだレポート上のプラチナ期は終わってなく^{†49}、ここから第三の進化

†46:実際ツアーなどではホール規模の会場を回り、普通のコンサートよりは規模の大きくなる卒業コンサートでは横浜アリーナで公演をしたりと、今のハロプロと規模は変わっていない。

†47:2007年を最後にNHK紅白歌合戦にも呼ばれなくなった。これを最後に今現在までハロプロのグループの紅白歌合戦出場は無い。

†48:ハロプロぼさ(ハロプロぼさを真剣に議論しようとするレポート一枚出来るレベルになるので今回は割愛するが、感覚としては地味でクラスで目立つタイプではないが裏では人気の女子のようなものとして理解してほしい)が薄くカリスマのようなメンバーであった久住が抜けることによりグループのハロプロぼさの濃度が高まったからと考える。

†49:一般的にはここまでがプラチナ期とされるが、この後の時代の名前が特にないのでここではこの後も含めてプラチナ期としている。

の過程に入っていく。5人のモーニング娘。はどのように変化していくのか。

ii.カラフル期のための第三の進化過程

2011年はモーニング娘。が大きく変化していく。もう信じられないくらい。
音楽性も次のカラフル期につながるような進化をしていく。個人的にモーニング娘。はこの時代が一番おもしろく好きなので楽曲も含めて聞いてみてほしい。

2011年、5人のモーニング娘。とは言ったものの実際の活動はほぼない。1月に9期メンバーである鞘師里保、譜久村聖^{†50}、生田衣梨奈^{†51}、鈴木香音の4人が加入してきた。メンバー加入は3年と9ヶ月ぶりで、なおかつ加入当時小学6年生という若さだった鞘師や鈴木はグループを大きく変えていく。

特に鞘師はダンスの面で誰よりも秀でており即戦力となった。また今後のモーニング娘。を大きく変えていく存在となる。

同年4月、45th シングル「マジですかスカ!」で9期メンバーはデビューする。この曲はグループの平均年齢も一気に下がったことから^{†52}、以前までの曲とは大きく異なる。つんく♂ライナーノーツを参照すると^[25]、

“長期にわたって新メンバー加入の無かったモーニング娘。は
良い意味ですごくスキルがあがってました。

それに伴って楽曲のポテンシャルも高くなって来ていました。

ですが、新メンバーが入った事により、単に難しい曲を提供することは
適正でないと判断しました。

～中略～

結果的にジャンルで言うレゲエの中のスカを選びました。

タテのリズムがしっかりあって、かつ、ノリも出しやすく、
そしてとてつもなく明るいアレンジにすることが出来るこのジャンルを

†50:当時ハロプロエッグ(現ハロプロ研修生)だった譜久村は9期メンバーのオーディションは落選しているのだが、オーディション合格者お披露目の時につんく♂の一声でメンバーに昇格した。^[24]

†51:在籍日数最長メンバー^[15]で現在もメンバー、そして10代目リーダーとして活躍している。

†52:9期加入前後で21.0歳→17.3歳。^[9]

選びました。

というように今までの方針とは打って変わっている。とてつもなく明るいアレンジにすることが出来るジャンルを今まで選んでいただろうか。

さらに同年6月に46thシングル「Only you」を、9月には47thシングル「この地球の平和を本気で願ってるんだよ!」^{†53}をリリース。そして9月には5期メンバーで6代目リーダーである高橋愛が卒業。7代目リーダーは同じく5期メンバーである新垣里沙となる。

さらに同年9月に10期メンバーとなる飯窪春菜、石田亜佑美^{†54}、佐藤優樹、工藤遥が加入した。同じ年に2度のオーディションがあったことは今でも無く、モーニング娘。で一番新陳代謝があった年と言っても過言ではない。

翌年2012年1月、48thシングル「ピョコピョコ ウルトラ」、4月には49thシングル「恋愛ハンター」がリリースされた。

新メンバーが入ったグループは更に拍車をかけスタイルを変えていく^{†55}。

10期メンバーが加入してすぐの「ピョコピョコ ウルトラ」では、9期メンバーが加入してすぐの「マジですかスカ!」よりポップで全体のノリが掴めるような楽曲に。

次のシングル「恋愛ハンター」はゴリゴリのEDM路線だが以前のプラチナ期の時よりポップでアレンジの平田祥一郎特有の、音数が少なく高貴感漂うサウンドとなっている。

同年5月、5期メンバーで7代目リーダーの新垣里沙、8期メンバーの光井愛佳が卒業するわけだが^{†56}、ここで抑えてほしいところは黄金期にいたメンバーが全員卒業したということだ。世間的な知名度は当時バラエティで活躍していた道重さゆみしかないと言える。要はあの国民的アイドルであったモーニング娘。のメンバーが一人もいないという状況なのだ。

一見今後不利になっていく状況かのように思えるが実はそうではない。これを逆手に取った戦略をしていくのだ。

†53:著者がハロプロ楽曲で一番好きな曲。歴史的背景を考えても、音楽性を考えても、メンバーを考えても、どれをとっても天下一品である。ファンクやディスコサウンドが好きな人は是非聞いてほしい。

†54:今秋卒業予定。現在は生田衣梨奈に次ぐ先輩メンバーである。

†55:はっきり変わったとわかるのはカラフル期。

†56:8代目リーダーは道重。

9期,10期の加入、そして高橋・新垣・光井の卒業によってプラチナ期は終焉を迎えていく。^{†57}

ここでの音楽性をまとめると、プラチナ期前半(9期メンバー加入前)とは大幅にスタイルチェンジ。ポップでリズム、ビートを最大限まで感じる楽曲が多く、これまでの EDM での楽曲とは一線を画す極みさ、大久保薫や平田祥一郎^{†58}の EDM 路線での活躍が目立つ。

(6)カラフル期(‘12~’14)

ここではついにモーニング娘。が今とほぼ変わらないような地位を得ることになる。その過程を述べていく、のだが実は今まで述べてきた全てが伏線のようなものとなっていく。全てこのためであったのかと、必然であったかの如く話が進んでいく。大切なことは随時振り返りながらこの激動の2年を共に見ていこう。

i.モーニング娘。の再評価

プラチナ期後半の歴史を振り返って分かった通り、モーニング娘。は新たに生まれ変わろうとしている。そして言葉の通り生まれ変わっていくわけだ。

ではどう生まれ変わる、どうスタイルを変えていくのか。それはフォーメーションダンスの導入だ。^{†59} 前述の通り9期メンバーにはダンスなら誰よりも秀でている鞘師里保、そしてダンスの経験がありダンススキルの高い10期メンバーの石田亜佑美がいた。

そして2012年7月、50th シングルである「One・Two・Three/The 摩天楼シ

†57:人によっては9期が加入したタイミングや10期が加入したタイミングでカラフル期が始まるとしているので注意。

†58:平田はプラチナ期以前からもハロプロ楽曲のアレンジャーとして活躍していた。一見 EDM というイメージは強くないかもしれないが、数多のハロプロ楽曲でヒラショーEDM を魅せつけている。同じ EDM でも大久保とは相反したものだと言者は感じている。

†59:個々のダンスではなく大人数で隊列を組み集団としてのダンスを魅せる踊り方のこと。[26 一部改定]

実はモーニング娘。の一番最初のフォーメーションダンスは黄金期の曲 12th シングルの「ザ☆ピ〜ス!」であったりもする。

ョー」^{†60}をリリース。この曲、このターニングポイントはモーニング娘。及びハロプロを語るうえで避けては通れない、そして基盤にもなっていると言ってもいいほど大切な曲である^{†61}。

まず全体的な雰囲気としてはゴリゴリの EDM でボーカルにまでエフェクトを強くかけていたりと今までの EDM 路線の曲とは大きく違っている。

またつんく♂のライナーノーツでも、^[27]

“今回はギリギリまでこの曲を作るのに時間を要しました。

テーマは決まっているものの、なかなかイメージに近づけず、

作っては壊し、また、別のものを作って、何度もチャレンジし、

そしてこの曲のスタイルに仕上がりました。

～中略～

声へのエフェクトも躊躇せずかけました。

ライブバージョンでの完全再現はなかなか難しいかもしれませんが、

今回はまず、作品を仕上げる事を一番に考えました。

ダンスは相当ハイレベルなことにチャレンジしています。

9期10期のメンバーはまだ入って1年そこそこなので、

プロダンサーの動きとは違うかもしれないんですが、

現状の経験値で必死に踊る（毎回が100%）姿こそが今のモーニング娘。のすべて。

この50作品目をきっかけにさらに新しいモーニング娘。になって行けると

確信しました。”

とあるように肩の力の入り具合が段違いでありこれまでとスタイルも違うことが察せられるだろう。実際に当時のことをつんく♂は

“この時期、正直、俺も「生みの苦しみ」の時期でもあった。なんとか打破したいと。で、9期10期

†60:初の両A面シングル。秋元康の策略に飲み込まれてしまったが、ちゃんとその流行りに乗れたアップフロントは素晴らしい。

†61:両A面シングルだがここでは「One・Two・Three」のことだけ記述していく。「The 摩天楼ショー」はこれまでにハロプロにあったようでなかったファンクサウンドで、正直引くほどつんく♂ファンクで変態的なので機会があれば聞いてほしい。アレンジャーの鈴木俊介が偉大である。

3 モーニング娘。の歴史―(6)カラフル期― i.モーニング娘。の再評価

が入って、ちょっとざわわってしてる中で、「さあ、ヒット曲頼むで！」というファンからのプレッシャーも感じてた。”

と述べている^[28]。

また当曲アレンジャーの大久保薫もつんく♂との対談で

“『One・Two・Three』以降は「編曲家・大久保薫」という名前を世間に知っていただけたと実感することが多かったです。”

と述べている。^[28]

プロの作家陣がこういったことを述べているということがこの曲の存在がどれだけ大きかったのかを示している。^{†62}

また YouTube 上にアップロードされている MusicVideo の再生数を比較してもフォーメーションダンスの衝撃は大きかったと言えるだろう。

この曲の通常の MusicVideo の再生数は 576 万回再生であるが、ダンスだけを俯瞰で映した Dance Shot Ver.の再生数は 1862 万回再生されている。(どちらも 2024 年 7 月 1 日現在)

次いでフォーメーションダンス、ゴリゴリの EDM という路線でモーニング娘。は 2012 年 9 月に 11 期メンバーの小田さくらが加入、同年 10 月、51st シングル「ワクテカ Take a chance」をリリース。^{†63}

着実に世間に注目されてきている。

そして 2013 年 1 月に 52nd シングル「Help me!!」を発売。このシングルが 3 年 8 ヶ月ぶりのオリコンチャートでシングル週間 1 位を獲得した。なお、ここから 5 作連続で 1 位を取ることで、どのシングルにも大久保薫がアレンジを手掛けている楽曲が収録されている。

さらに時代を進めていこう。同年 4 月に 53rd シングル「ブレインストーミング/君さえ居れば何も要らない」をリリース。5 月には 6 期メンバーの田中れいなが卒業し、プラチナ期を過ごしたメンバーは道重のみとなった。加入当初からエース格であった田中が抜けたが、また更にパフォーマンスが煮詰まっていくの

†62:実はこの曲がアイドル界に EDM を持ってきたともされており^[29]、ダンスだけでなく音楽の面でもモーニング娘。内だけでなくアイドル界に影響を与えていると言える。

†63:小田は 51st シングルには参加していない。

だ^{†64}。

ii.地位の獲得と道重の卒業

田中の卒業後 2013 年 8 月、54th シングル「わがまま 気のまま 愛のジョーク /愛の軍団」をリリース。

先述の通り集団での力が強まりフォーメーションダンスにさらなる拍車がかかっていくモーニング娘。はこのシングルでさらに躍進を進める。

ハロプロでは珍しくメンバーが同じ衣装でフォーメーションダンスを踊り狂う「わがまま 気のまま 愛のジョーク」の衣装を用いて、東京各所に一度国民的アイドルでありそこから人気低迷したことを逆手にとるかのように「私たちが今のモーニング娘。です。さあ、行こうか。」といったキャッチコピーの看板を掲げたり^[30]、グループが生まれ変わったといった趣旨のプロモーションビデオ^[31]を作ったり、非常にプロモーションを頑張っていた。^{†65}そして6年ぶりにミュージックステーションに出演したりもした。

ここまで読んでもらおうとわかるだろうが、モーニング娘。及びハロプロは怒涛のアイドル戦国時代をくぐり抜け現在の地位に立っている。

地位とは、フォーメーションダンスやつんく♂のサウンドによりアイドルの中では特に実力派と表現されることも多く、黄金期の時より歌やダンス、サウンドをメインになっていることから地味だが王道アイドル、そして実力派という不動の立ち位置についた。^{†66}また、ハロプロ自体もそういう評価をされ、2010 年にスマイレージがアイドルフェスに出始めたことや^[2]、2015 年に℃C-ute が ROCK IN JAPAN FESTIVAL に初参加^[32]。そして2018 年にはいよいよモーニング娘。(当時モーニング娘。'18)が同フェスに初参加^[33]となった。

そもそも内輪的、閉鎖的であったハロプロが外部のフェスに出始めたことは非常に革新的で、外からの評価を非常に受け^[34]更に実力派という地位を築いていた。^{†67 †68}

†64:エース格であった田中だが、個が強すぎたこともあってか卒業後の方が集団での力が強くなりさらにフォーメーションダンスに拍車がかかったように感じる。

†65:ハロプロ特有のダサさは感じるが、アップフロントがしたとは思えないほどカッコいいプロモーションとなっている。是非目を通してほしい。

†66:実際に今もその立ち位置はあまり変わっていない。というよりそれが定着して加速しているのではとも思う。

†67:勘違いされやすいので言うておくがハロプロは音楽番組に出ようと真夏のフェスに出ようと口パクは一切しない。まさに実力派である。

と、当時から今現在までのハロプロのことを綴りすぎてしまったので話をカラフル期のモーニング娘。に戻そう。

2014年、モーニング娘。というグループ名の後ろに西暦がつくことになった。例えば2014年ならモーニング娘。'14(ワンフォー)と言う名前で、2024年ならモーニング娘。'24(トゥーフォー)である。

つくく公式ブログより^[35]、

“2014年で命名より17年になる「モーニング娘。」ですが、
この先も10年20年30年とグループを存続させて行く為にも
「〇〇〇〇と言う曲名のシングルっていつ頃の歌だっけ!？」や
「〇〇さんって、いつ時代のモーニング娘。だった？」
などという素朴な疑問が即座にわかっていただければと思い
「年」を表記することにしました。”

と述べている。これによる弊害も出たりしているが^{†69}、一年一年違うモーニング娘。であるということを強調するためには良いのではないか。

そして同年1月に55thシングル「笑顔の君は太陽さ/君の代わりは居やしない/What is LOVE?」、4月には56thシングル「時空を超え 宇宙を超え/Password is 0」、10月には57thシングル「TIKI BUN/シャバダバ ドゥ〜/見返り美人」をリリース。同年9月には12期メンバーの尾形春水、牧野真莉愛、野中美希、羽賀朱音が加入してきた。^{†70}

さらに同年11月、6期メンバーで8代目リーダーの道重さゆみが卒業した。9代目リーダーは9期メンバーの譜久村聖に選ばれた。

と、ここでカラフル期は終了する。

モーニング娘。及びハロプロの国民的アイドルとはまた違う新しい地位を

†68:実は実力派と呼ばれるスキルが出来た所以はモーニング娘。だとプラチナ期のパフォーマンス力の著しい進化が関わっている。あの頃にパフォーマンスで作る楽曲を広げていたからカラフル期での地盤が出来たと言っても全く過言ではない。全ては伏線だったのかのようにストーリーを繰り広げていく。

†69:カラオケのデンモクで「モーニング娘。」と検索すると「モーニング娘…」などという表示が多くでてき、一体何年のモーニング娘。なのかわからなくなるといったもの。もちろん他にも様々なところで弊害は出ている。

†70:本格的な活動は道重卒業後の2015年から。

手に入れていった過程が見えただろうか。またこれは直接現代に関わることで現在のハロプロを応援するなら抑えておきたい事案である^{†71}。

音楽性をまとめておくと、カラフル期前半(‘12~’13)は上述の通りゴリゴリ EDM で出来上がっており、カラフル期後半(‘14)になると、大久保薫の EDM 技術、そしてストリングスなどの生音を巧みに操る技術の混合体のような曲^{†72}など、少しゴリゴリ EDM とは変化した曲が多くなっていった^{†73}。

ここでこの次のミズ期と行きたいところなのだが、なにせ地位を築いてしまい^{†74}今までのようなアイドル戦国時代を右往左往するような動乱でなくなるのでここで歴史を振り返るのは終わりとしたい。

2015 年~現在のモーニング娘。を知りたいときは是非 [8] やライブ映像、MusicVideo を確認してほしい。

†71:もちろんそれまでの過程があつてこそなので歴史を 1 から振り返っていったわけだが。

†72:「時空を超え 宇宙を超え/モーニング娘。’14」

†73:もちろんモーニング娘。’14 クレジットでも王道のゴリゴリ EDM でフォーメーションダンスバキバキの「What is LOVE?」や「TIKI BUN」などもあった。

†74:決して良いことだけではなく、もう爆発的なヒットがなくアップフロントも常に現状維持を目指していそうなのでこれまでのような動乱がなく少々退屈だったりする。

4.考察

ここまで怒涛のモーニング娘。の歴史を 20 ページ超に振り返ってきた。いよいよ本題だ。この歴史から何を学ぶのか。

まず前提としてモーニング娘。は 27 年目を迎え、新陳代謝があるアイドルグループという類では群を抜いて先輩である。またその歴や過去の栄光に縋ることもなく精力的に活動をしている。

ここで疑問に思うことが、なぜそんな長く活動をしていられるのか。^{†75}考えてみれば「モーニング娘。」とは過去の名前であり、カラフル期に今の地位を手に入れた時も国民的アイドルと呼ばれていた時ほどの売れ方はしていなかった。そんな過去の名前を掲げて令和の世もなぜ活躍をしているのか。

私が考えるに、それは楽曲への素直な情熱である。バンドマンであるつんく♂プロデューサー^{†76}であるということ、そして老舗音楽事務所アップフロントやそれを取り巻く作家陣、メンバーの熱い情熱がそうさせているであろう。またつんく♂はアイドルソングを作っちゃダメだよと言っているほどで^[28]、楽曲への本気さがうかがえる。^{†77}

要はアイドル界で人気が驚くほど低迷していても楽曲への本気さ、そういったアイドル界ではなく音楽界という広い世界での芯をずっと持ち続けてきたこと。自分たちが生き残れる市場が本来とは違っていても構わないと言った姿勢である。

実際問題、人気があったといえる 2002 年にハロマゲドンを起こしたこと^{†78}も一つの生き残るための策であったのかもしれない。現に自分は結果論ではあるがハロマゲドンが起こったことは肯定派であり、理由としては「飽きさせない」ということは何事においても大事だと思うからだ。もしハロマゲドンがないままモーニング娘。及びハロプロが進んでいたら、音楽性もきっとそのまま^{†79}世間に飽きられた時に返しのつかないものとなっておりグループ自体の存続が危うかったのではないだろう

†75:メンバー自体の歴の長さはせいぜい長くて 10 年強であるのでここで言うのはグループのこと。

†76:現在はそうではないが、プロデューサーから外れてもどこのアイドルよりも音楽に注力していると自負している。また OKAMOTO'S のベーシストであるハマ・オカモトやギタリストのマーティ・フリードマンなど音楽界隈のハロヲタも多く存在している。

†77:大森靖子のカバーなどを聞いてもらったらわかるのだがアイドルソングであるとは到底思えない。

†78:ハロマゲドンを起こした人物が誰かは正確にはわかっていない。

†79:変革をしないということなのでスタイルを変えず現状維持のまま進んでいくという把握でいる。

4. 考察

か。^{†80}

そういう考えだと音楽性を逐次大きく変え、既存のグループでも常に新しいグループ像を探していたつくもやハロプロは偉大ではないだろうか。

芸能界で確実に「売れる」というルートや道など存在しない。それは「再起する」ことも一緒である^{†81}。常に暗い道を己一人で突き進まないといけない。

これを我々でも言えるように一般化してみよう。何事も自分に置き換えて考えることは重要だろう？

「例え一度成功したとしても、その成功した時の場所や方針、スタイルに頼ってはいけない。時に低迷すると分かっていたとしてもスタイルを大きく変えることも長く続けるためには必要であろう。だが、かと言って迷子になってはいけない。心のなかで変わらない大切な譲れない芯の部分は持っているままで、またそのための努力はそれまでと変わらいように行っていくべきだ。」

と言ったところだろうか。

まだ学生なのでこういった活動、成功と失敗がある活動に出会うことは少ないが高専生という立場上絶対にこういう機会は多くなっていくだろう。そんなときはモーニング娘。を思い出す。冗談かのように聞こえてしまうが、このレポートを読んだあなたならあながち間違いではないと感じるだろう。

まさかアイドルを応援していてこんなことを考える日が来るとは思っていなかった。時に例えサブカルなどの自分の趣味の歴史だろうとそこから教訓を考えてみるのも面白いものだ。

^{†80}: とはいえブラチナ期あたりのハロプロも「ハロプロが終わる」とファン内では囁かれていたのだが。だが実際その当時の音楽が悪かったことはない。

^{†81}: 多分再起する方が難しい。

5.終わりに

なぜ自分はここまでしてアイドルの歴史を振り返っているのかと冷静になることもあったが、ハロヲタ人生的にも人間としての人生としても何か得るものがあったであろう。^{†81}

ただの歴史のレポート^{†82}にこれだけの熱量を注ぎ込んでいるという事で感じると思うが、私はハロー!プロジェクトが大好きだ。今までさまざまな趣味を持ってきた。人一倍いろんなことを深めてきたと自負している。だがここまで好きになったものはないと思う。

なんだか溺愛中のしょうもない彼氏のポエムみたいになってしまったがちゃんと根拠もある。^{†83}

この年齢で一生付き合えるような好きなものを見つけることが出来たのは非常に大きい。もし好きじゃなくなってもこれだけの経験をしたことはきっと無駄にはならないだろう。

突然だがこのレポートのタイトルを覚えているだろうか。「モーニング娘。から見るハロー!プロジェクトの歴史」を、解説するためのモーニング娘。の歴史」である。

お気づきだろうか。モーニング娘。の歴史はハロー!プロジェクトの歴史を振り返るためにまとめたのだ。

さすがに今からこれを踏まえてハロプロの歴史全解説といったことはしない。だが忘れないでほしいのはこれはまだハロプロの氷山の一角である。確かにモーニング娘。はハロプロの歴史の軸であり、上述したおおよそのモーニング娘。の流れと似ていることはその通りだ。だがあくまでそれはハロプロ全体なだけであり、細かいグループの歴史とはあまり関係がない。

ここで記憶にアクセスしてほしいのだが、今までの歴史でミニモニ。やプッチモニなど出てきただろうか。そうである。一切出ていない。

こういったモーニング娘。の派生ユニットでさえ全く出ていないのだから、もちろん他のハロプロのグループなど出ていないに決まっている。

†81:そう信じるしかない。

†82:ノルマはA4用紙2枚分である。本当だ。

†83:紹介するものなんか違うのでここでは割愛。

5.終わりに

まだまだ分厚いハロプロの歴史。体感だとこれでハロプロの1割未満。あくまでおおよその解説に過ぎない。そもそもモーニング娘。の歴史さえも終わってないし。

この残りのハロプロを楽しみにするか否かはあなた次第だが、ここで私が望むことは日本アイドル界にはモーニング娘。を始めとしたハロー!プロジェクトという団体が存在していること。それは27年近くの歴史を走り抜けて現在も色褪せること無く精力的に活動していることを知ってもらうことだ。^{†84}

もしあなたがどこかでハロプロのアイドルを見かけたら私のことを思い出してそっと応援してあげてほしい。きっと彼女たちはあなたが思っている以上に音楽に向き合っていて一切の妥協をしていないはずだ。

なにかを好きになるにはまずそれが自分のパーソナルな部分に入らないといけない。それは単純に好きという気持ちであったり、興味であったり。

このレポートを読んであなたのパーソナルの部分の中にハロー!プロジェクトが入ってくれば何よりの幸せである。ハロー!プロジェクトはいつでもあなたを待っている。逃げもしないし裏切りもしない。最高の音楽集団である。^{†85}

†84:このレポートの裏テーマでもある。現状で全然満足しているとは言え、やはりできるだけ多くの人に知ってほしい。

†85:どこか宗教じみたものを感じたであろう。だがあなたがその考えは間違いでなく、ハロプロを好きになってしまうと音楽性や歌い方、サウンドの作り方が独特すぎてハロプロ以外のアイドルソングを聞けなくなってしまう。ネットでもそういう揶揄をされることが多いが、自分でもまさに宗教であると感じている。まあ好きになって損することはない。安心せい。

<脚注・参考資料> ([1] ~ [17] まで 2024 年 6 月 30 日閲覧、[18] ~ [35] まで 2024 年 7 月 1 日閲覧)

- ・ [1] アイドル戦国時代-エケペディア

<https://48pedia.org/%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%AB%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3#:~:text=%E3%80%8C%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%AB%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%80%8D%E3%82%BC%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%AB,%E3%81%A7%E4%BD%BF%E3%82%8F%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>

- ・ [2] “アイドル戦国時代”幕開けの瞬間（前編） -ナタリー

<https://natalie.mu/music/column/380454>

- ・ [3] 指原莉乃、ハロプロ書類審査落ちた過去明かす「AKB ではさらっと通る…」 -ORICON NEWS

<https://www.oricon.co.jp/news/2076393/full/>

- ・ [4] 柏木由紀、AKB48 歴代最長 17 年の活動に幕 「本当に楽しかった」と感謝-Yahoo!ニュース

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6f93717db92dd1e712d673cba80da9ec654ea235#:~:text=AKB48%E5%9C%A8%E7%B1%8D%E6%97%A5%E6%95%B0%E6%AD%B4%E4%BB%A3,%E3%81%AE%E6%9C%9F%E7%94%9F%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%A6%E3%83%87%E3%83%93%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%80%82>

- ・ [5] 柏木由紀「モー娘。に入りたかった」 過去に受けたオーディションを懐古 -ニッポン放送 NEWS ONLINE

<https://news.1242.com/article/279199>

- ・ [6] ハロー！プロジェクト -Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88>

- ・ [7] アップフロントグループ -関連会社

<http://www.ufg.co.jp/associated/#asat05>

- ・ [8] モーニング娘。の歴史 -Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0%E5%A8%98%E3%80%82%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>

- ・ [9] モーニング娘。 -Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0%E5%A8%98%E3%80%82>

- ・ [10] 40 周年！オールナイトワズこそ《おニャン子、モー娘。、AKB48、乃木坂 46…》の源流だ！ - Re:minder

<https://reminder.top/751941631/>

- ・ [11] 福田明日香、モー娘。前編/ブレイクの裏で精神崩壊/反対押し切り卒業も高校中退しニート…そして水商売へ -YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=oo6n11IIE9E>

- [12] DANCE☆MAN BIOGRAPHY

<http://www.dance-man.net/bio/index.html>

- [13] 米津玄師氏の担当の方から連絡がありました。 -つんく♂のプロデューサー視点。

<https://note.tsunku.net/n/nf506bf96b59c>

- [14] ハローマゲドン -Wikipedia

<https://music-book.jp/music/news/column/160644/f>

[30] 広告看板_私たちが今のモーニング娘。です<渋谷 1> -キングダム为民_Ameba

<https://ameblo.jp/gul--dukat/entry-11600494829.html>

[31] 10/娘。ムービー モーニング娘。 17 年目も さあ、いこうか。 -YouTube

https://www.youtube.com/watch?v=_HvMFEqTIUo

[32] ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2015、ライブアクト全出演アーティスト発表！ -rockin'on.com

<https://rockinon.com/news/detail/125204>

[33] モーニング娘。'18 - ライブ写真とセットリスト | ROCK IN JAPAN -rokin'on.com

<https://rockinon.com/quick/rijfes2018/detail/178777>

[34] モーニング娘。'22、“体力おばけ”はロッキンで何を見せるのか 過去のセットリストから今年の注目ポイントを探る

<https://realsound.jp/2022/06/post-1060654.html>

[35] モーニング娘。に関してのお知らせ -つんブロ♂芸能コース_Ameba

<https://ameblo.jp/tsunku-blog/entry-11718884960.html>